

大阪府で最南端の山 和歌山県側は森林公園

和泉山脈の阪南市・岬町に含まれている山は、明治36年(1903)に旧陸軍由良司令部管轄の要塞地帯に編入され、立入り禁止区域となっていた。戦後登られるようになったが、大阪市内からは何分にも遠い。そして大阪側からの登山道は少ない。

この高森山は、和泉山脈中三角点のある山では最も西端にある。北山とも言った。和歌山市北西部の加太から北北東へ約3[㍎]、大阪府岬町との県境に位置する。標高284.5[㍎]、和泉山脈西端部山塊では最も高いため、古来紀淡海峡を航海する船の目標となった。現在は四国山と共にハイキングコースとなり、登山道も整備され、周辺は森林公園に指定されている。もちろん和歌山県のである。

大阪と和歌山の府県境は、多奈川小島住吉より始まっている。この府県境を通過して高森山に登る計画を立てた。しかし失敗に終わった。

まず府県境マークがない。登山道などははじめからない。持ち山の境界マークがあるが、これなどを辿るとどこへ行くかわからない。300[㍎]にも足りない山々であるが、小さな尾根が入り組んでいて、一歩間違えば猛烈なプッシュでにっちもさっちも行かなくなる。予定どおりに進もうと思えば芝刈隊を連れて行かねばならない。その前に絶対にルート間違えない自信があつてのことだ。絶対に間違いないと思って歩いていると、突然ワイヤロープで鉄板がブラ下げてある。読んでみると、高野営林署の名前で「10月1日～11月30日の間通行禁止」となっている。腹が立つが仕方がない、引き返すことにする。下山して聞いてみると、平成4年頃から松茸の採取権を入札で売っているそうで、平成7年は60万円だったそうだ。営林署が松茸を売っているとは初耳であるが、赤字続きの林野行政に少しでも貢献していると思えば納得する。

大阪と和歌山県の県境を歩いた、という人を聞く。しかし私が歩いた経験からすると疑わしい。やはり歴史探訪を兼ねて登ることをおすすめする。南海多奈川線多奈川駅前発小島住吉行きのバスに乗り、終点で降りる。明神崎の名勝が目と鼻の先にある。釣り堀の側に「魚供養塔」がある。車道を約15分、和歌山側に入ると大川に着く。報恩講寺への道が高森山の登山道となる。しばらくは谷道である。旧陸軍の由良司令部の石柱が見られる。「つわもの共の夢のあと」。雑木林のジグザグ道を登ると山頂に着く。友ヶ島を眼下に紀淡海峡には大小の船が行きかっている。四国山への縦走をおすすめしたい。四国山からの展望台は360度ほしいまま。森林公園らしく整備されているのんびりした気持ちになる。下山は多奈川西畑へお

すすめしたい。車道を下ると、トリムコース3600の看板がある。この手前の左側にルートがある。わかりづらかったら、もう少し下ると葛城二十八品行場のマークがあるので左の林道を伝うと簡単に西畑に着く。竹林を下ると約15分で車道に飛び出す。

この西畑は、教養高く書をよくし才色兼備で一級の文化人であった「和泉式部」のゆかりの土地である。和泉式部は、藤原道長の時世に中古三十六歌仙の一人として名声を高めた歌人である。

楠木部落の中を通り、やすらぎの小路を行くと興善寺と理智院の間に出る。

理智院 / 高野山真言宗の寺である。

興善寺 / 比叡山天台宗の寺である。仁寿二年(852)文徳天皇の勅願で建立。大日如来の本尊、釈迦・薬師の脇侍は本堂に安置されていて、大正4年(1915)に国宝に指定され、現在は重要文化財になっている。この漁村で観る三尊には感動する。

産土神社(うぶすなじんじゃ) / 興善寺とセットで建てられたもので、神さんと仏さんが仲よく居るのも微笑ましい。ここから多奈川火力ここ発電所の前を通るとすぐに多奈川駅に着く。

和泉式部の歌一首

たをやめや影兄が池の蓮葉(はちすば)は

心よげにぞ匂いぬるかな

(渡辺整司)

